

第3章 子どもを支える学校づくり

基本目標6 四日市ならではの

地域資源を生かした教育の推進



四日市ならではの地域資源を教育に生かすことにより、ふるさと四日市に誇りと愛着を持ち、社会の一翼を担う人材を育成するための教育を推進します。

- 1 歴史・文化・自然を活用した教育の推進
- 2 高度なものづくり産業と連携した教育の推進
- 3 公害対策モデル都市としての環境教育の充実



1 歴史・文化・自然を活用した教育の推進

◆ ねらい

四日市市は豊かな歴史と自然を背景に、様々な文化が生まれ、現在も数多くの文化財や伝統芸能などが継承されています。本市のもつ地域資源を教育に活用することにより、ふるさと四日市に対する誇りと愛着を育むとともに、地域とともにある特色ある学校づくりを推進します。

◆ 取組指標とその評価

H30までは全60校、R1からは全59校

取組指標	基準値	H29	H30	R1	R2	R3	目標値
博物館・久留倍官衙遺跡及び地域の歴史・文化・自然等を学習教材として活用した学校数(校)	小37 中22	小38 中22	小38 中22	小37 中22	小26 中0	小22 中18	全小中学校 (59校)

・R3年度の内訳：新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、休館・人数制限等の対応により活用学校数は、プラネタリウム(中18・小13)、昭和展(小20)にとどまりました。(51校中11校がプラネタリウム及び昭和展を見学したため、実際の学校数は40校となっています。)

1. 博物館の活用 **新プロ6**

◆ 具体的な施策の現状と課題

常設展「時空街道」、学習支援展示「四日市空襲と戦時下の暮らし」「昭和の暮らし」では体感的な展示を通して学習支援を行っています。

○学習支援展示・子ども博物館教室・展覧会関連行事などの体験的なワークショップの連携により、歴史・文化に対する学習効果の向上を図りました。

- ・四日市空襲体験者による空襲体験を語り継ぐ場を設け、博物館資料と地域の人的資源の活用を図りました。

- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、展示会場やワークショップに人数制限を設けた対応になり、各学校や参加者の希望に沿った学習プログラムを十分に推進できませんでした。

○小中学校との授業連携

- ・「昭和の暮らし」展では授業の参考となる見学のしおりの作成と、能動的・主体的な見学ができるよう体験コーナーや再現展示を充実しました。会場内では、各学校の先生方による体験的な授業が多く展開されていました。

◆ 今後の方向性

○児童・生徒が、自ら考え学ぶことができる体感的な社会教育施設として、学習支援展示等を充実させるとともに、より一層博学連携による教育効果を高めます。さらに、学習支援展示の3DVRや四日市ならではの地域資源に関する情報を積極的に発信します。



昭和の暮らし展で学ぶ児童



むかしの道具体験をする参加者【博物館教室】

教職員研修受入推移 (内社会体験研修)	
R3	20人(16人)
R2	2人(2人)
R1	15人(8人)

2. プラネタリウムの活用 **新プロ6**

◆ 具体的な施策の現状と課題

従来の天体の動きや宇宙についての理解を深める天体学習に、学習支援展示「昭和のくらし」展にあわせた新しい学習投映プログラムを追加し、小学校3年生から中学校3年生まで幅広くプラネタリウムを活用できるようにしました。

○ 小学校を対象とした学習投映

- ・各学校の校庭を映し出し、そこから見た星空を再現して天体観察を行いました。なお、校舎工事改修に伴い、新校舎になった小学校の景色を更新しました。
- ・修正した環境学習番組「アースメッセージ」で、四日市公害や地球環境について学習を深めました。
- ・学習支援展示「昭和のくらし展」の内容をより深めるために、昭和時代につくられた道具の星座と地域の行事を紹介する学習投映を行いました。



昭和につくられた道具の星座

○ 中学校を対象とした学習投映

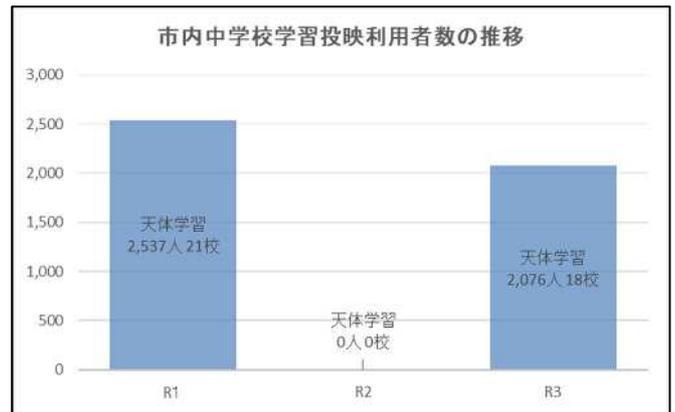
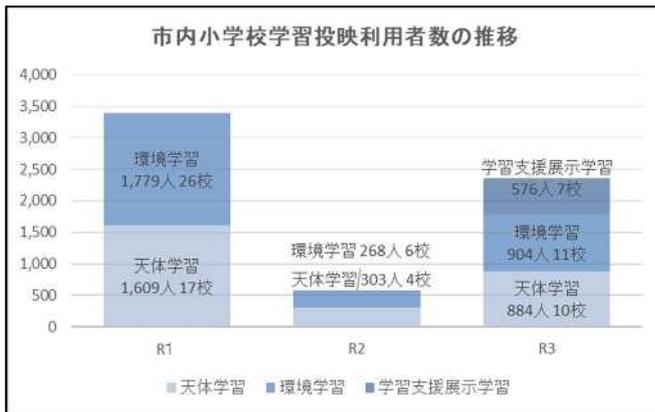
- ・「四日市公害と環境未来館」と連携して学習投映を行いました。定員を70席に限定しているため、学校の規模に応じて投映回数を増やしました。そのため、一回当たりの学習投映時間をこれまでの半分に減らして実施しました。今後、効果的な学習を図るため、限られた時間の中でどの章に焦点を当てて投映すべきか検討していきます。



70席に限定した学習投映

○ 学びの保障の取組

- ・学習投映を利用できない学校に対して行う移動天文車「きらら号」の派遣及び天文教室について、新型コロナウイルス感染症の拡大防止により学校への派遣が困難になり、実施できませんでした。



◆ 今後の方向性

- 学習支援展示「戦時下のくらし展」にあわせた新しい学習投映プログラムを追加し、利用促進とより深い学びの機会を提供していきます。
- プラネタリウムを利用できない学校に対して、移動天文車きらら号及び学芸員による天文教室を実施し、学びの保障に取り組んでいきます。
- 四日市公害と環境未来館との連携を深め、環境学習番組をより活用していきます。

3. 久留倍官衙遺跡の活用 新プロ6

◆ 具体的な施策の現状と課題

○ 久留倍官衙遺跡公園の活用

久留倍官衙遺跡のガイダンス施設「くるべ古代歴史館」は、令和2年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を行いつつ、令和3年度の社会見学は小学校4校、また社会見学以外での館内（及び公園）の見学は小学校3校が実施しました。

その際、「久留倍官衙遺跡公園ホームページ」で公開している動画も紹介しながら解説を行うことで、児童たちがより興味を持って話を聞いたり、学芸員や解説ボランティアに積極的に質問したりする姿が見られ、四日市ならではの身近な地域資源が学習に生かされていると感じられました。

一方で、令和3年度は中学校の来園が乏しく、今後小・中学校ともさらなる活用ができるよう、新たな教材開発が必要です。

○ 出前授業、体験活動

新型コロナウイルス感染症の影響で、校外学習活動が困難な中、出前授業が活用されています。

久留倍官衙遺跡を学び、あわせてふるさとに対する誇りと愛着が育めるよう「志氏神社古墳」から出土した勾玉を型にした勾玉づくり体験活動を行っています。

そうした学校が、令和2年度小学校2校から令和3年度は小学校4校で実施しました。

今後は、各学校個別での学習状況を把握しつつ、出前授業ではそれぞれの学校が持つめあてに沿った内容にすることで、児童生徒がより学びを深められるよう、そして過去実施校の継続活用、さらに新規活用校を増やすことが重要です。

○ 発掘展 ～夏休み！子どものための考古学～

市立図書館で展示する発掘展では、児童生徒が一人一台タブレットを活用して学習ができるように、QRコードから市ホームページの遺跡情報（GIS）へアクセスできるパネルを配置しました。

その結果、児童生徒が自発的に市内の遺跡へ実際に出かけた上で、改めて資料見学をする事例がありました。

◆ 今後の方向性

○ 四日市ならではの学習資源の1つである久留倍官衙遺跡公園が、学校教育においてより活用されるよう、出前授業や具体的な学習事例の提示、ホームページの更新等ICT環境の充実を図りつつ、地域の解説ボランティアとのふれあいや学習を通して、「心豊かな“よっかいち人”」の育成を目指します。



公園見学の様子



出前授業の様子



体験活動の様子

4. 自然体験の充実 **新プロ6**

◆ 具体的な施策の現状と課題

- 新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、小学校28校と中学校1校が泊を伴わない日帰り活動となりましたが、すべての小・中学校が実施しました。3学期にはスキー実習中心として活動する中学校2校が実施しました。

感染症対策を行った上で、キャンプファイヤー、野外炊事やオリエンテーリング・ウォークラリー、カヤック等、豊かな自然の中で普段の学校生活では味わえない活動を実施しました。また、友だち同士助け合うことや協力することの大切さを学べるような活動を取り入れました。

自然教室での実施プログラムと実施校数

野外炊飯	小 17 中 11	里山保全	小 7 中 9	創作活動	小 20 中 13
カヤック	小 19 中 3	星座観察	小 0 中 1	火起こし体験	小 8 中 5
ウォークラリー	小 19 中 12	自然散策	小 8 中 1	御在所登山	小 2
キャンプファイヤー	小 9 中 5	ハイキング	小 2 中 4	御在所スキー	中 2

- 実施後の教職員アンケートからは、「普段味わえない豊かな自然に触れ、のびのびと活動をすることができた。」「集団生活をしていくためにどう行動するべきか考えさせることができた。」「いくつかの活動をローテーションさせることで、効率よく活動を進めることとコロナ対策の両立させることができた。」等、多くの成果が見られました。



キャンプファイヤーの様子

- 一方で、「リーダー性を育成するためにも子どもたちに考えさせ、動かせる場面をもっと多くできるとよかった。」「活動を多く入れたことで、子ども達が自由にゆっくりと自然に親しむ時間を取ることが出来なかった。」「感染予防を第一に計画を立てたため、教師の動きが例年以上に多岐に渡り、当日の活動前の準備にかかる時間が少なくなった。」等、計画するうえでの課題もありました。

令和3年度の施設利用状況

利用施設名	小学校（小5）	中学校（中1）
四日市市少年自然の家	37校 2,654名	18校 1,901名
三重県立鈴鹿青少年センター	—	2校 423名

◆ 今後の方向性

- 今後も活動内容が充実するよう、小中学校ともに、自然教室のねらいや子どもの発達段階に応じてプログラムを見直し、新しいプログラムを積極的に紹介するなど、日常では体験できないような自然体験活動をより充実させていきます。
- 夏季休業中に、野外活動や新しいプログラムの体験に関する研修会を実施するなど、教員の指導力向上に努めます。
- 児童生徒が安全・安心に自然体験ができるよう、活動時等における感染症対策の徹底など、引き続き、利用施設との連携に努めます。



2 高度なものづくり産業と連携した教育の推進

◆ ねらい

四日市市の大きな特長である多様なものづくり産業や、四日市市が協定を締結している J A X A（宇宙航空研究開発機構）と連携した教育を推進することにより、科学への興味・関心を高めるとともに、社会とのつながりの中での学びを、生活の中で出会う課題の解決に主体的に生かしていこうとする態度の育成を図ります。

◆ 取組指標とその評価

取組指標	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	目標値
企業や JAXA の連携授業を受けたことがある学校数（校）	小中 16	小中 24	小中 28	小中 36	小中 42	小中 44	小中 46	小中 50校

- 連携授業を受けたことがある学校は46校でした。新型コロナウイルス感染症の影響で実施できなかった学校が4校あり、目標に到達しませんでした。今後も、より多くの学校で連携授業が実施されるよう、オンラインによる連携授業を取り入れたり、さまざまな機会では本事業の意義や魅力について紹介したりし、活用を働きかけます。

◆ 具体的な施策の現状と課題

企業18社（出前授業14社、社会見学11社、教職員研修8社、四日市子ども科学セミナー10社・2団体）と J A X A の協力により、連携授業等を実施しました。 新プロ6

○ 連携授業

令和3年度は、企業・JAXA合わせて、のべ16回の連携授業を行う予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、実施できたのは12回でした。

- 企業との連携授業（8回）

実験や講義を通して科学の仕組みがどのように製品に生かされているかを知ること、教科の学習内容と実生活や実社会とのつながりを実感できる授業内容にしています。また、体験を通じて、企業の高い技術力を支えるプロの職業観を学ぶキャリア教育の授業も行われました。今年度はオンラインによる出前授業も実施されました。

味の素株式会社東海事業所
味の素食品株式会社三重工場
株式会社東産業
株式会社三重興農社
キオクシア株式会社四日市工場
コスモ石油株式会社四日市製油所
昭和四日市石油株式会社
JSR株式会社四日市工場
住友電装株式会社
第一工業製薬株式会社四日市工場
大洋塩ビ株式会社
太陽化学株式会社研究所
中部電力パワーグリッド株式会社四日市営業所
東ソー株式会社四日市事業所
東邦ガス株式会社三重事業所
日本アエロジル株式会社
富士電機株式会社三重工場
三菱ケミカル株式会社三重事業所

協力のために連携している企業（順不同）



（左）中学2年生 キャリア教育
「その道のプロに学ぶ職業観」



（右）小学5年生「もののとけ方」
（オンラインによる出前授業）

第3章 子どもを支える学校づくり

6 基本目標6 四日市ならではの地域資源を生かした教育の推進

・ J A X Aとの連携授業（4回）

宇宙に関わる豊富な映像と最新の科学技術や情報をもとに、宇宙への夢が広がり、知的好奇心を喚起する授業となっています。コンピュータに指示・命令をし、模擬的な人工衛星に意図した動きをさせるプログラミングの授業も1人1台タブレット端末を使って実施されました。



小学4年生「人工衛星とプログラミング」

○ 教職員研修

・ 企業連携による研修（1講座）

工場見学を通して、企業の持つ科学技術や働く人の安全を守るシステム等について学び、教科で学習する科学技術と実社会とのつながりについて理解を深めました。さらに、教科のどの学習場面で、企業連携研修で学んだことを生かした授業ができるか考え合いました。

・ J A X A連携による研修（1講座）

J A X A講師とオンラインでつなぎ、授業に生かせる宇宙教材とその活用例を学びました。また、グループワークにより宇宙教育（宇宙を素材とした授業）をどのように実践するかを考え合いました。

○ 四日市こども科学セミナー

本セミナーは、毎年夏季休業中に開催し、「ものづくり」「環境」「宇宙」をテーマに、子どもたちが科学にふれ、科学への興味・関心を高める機会としています。

令和3年度は、①宇宙飛行士に挑戦、②石油化学コンビナート見学と環境学習、③四日市をささえる企業等による実験・体験、④風で電気を作ろう、⑤宇宙に関する講演会の5パートに約340人が参加しました。

感染症対策により人数や活動が制限された部分もありましたが、参加者からは「作った物も生活に密着していて科学が身近に感じられた」「四日市の色々な企業について知れてよかった」との声が寄せられました。また、参加企業からは「未来を担う子どもたちに科学に興味を持ってもらえるきっかけになった」「コロナ禍でも楽しく学んでもらえた」との声をいただきました。



企業等による実験・体験

◆ 今後の方向性

○ 企業・J A X Aとの連携授業では、企業等の専門的な知識を生かし、実社会の問題との関連をより意識できる内容にしていきます。具体的には、1人1台タブレット端末の活用を図りながら、カーボンニュートラル化やSDGsなど、持続可能な社会に向けた企業の新しい取り組みを知る機会となるようにします。

○ 「四日市こども科学セミナー」では、四日市市の産業都市としての特長や、産業の発展と環境保全の両面の取り組みをアピールするとともに、子どもたちの科学への興味・関心を高める取り組みを継続します。また、各パートの内容の見直し・拡充にも取り組んでいきます。



3 公害対策モデル都市としての環境教育の充実

◆ ねらい

本市は、地域住民・企業・行政が一体となり、産業の発展と環境保全を両立するまちづくりを進めてきました。現在も、公害対策モデル都市として歩み続けています。その環境改善の取組について学ぶことでよりよい未来の環境を考え、家庭や地域とともに継続的に環境保全に取り組む子どもを育てます。

すべての教育活動において、将来にわたり豊かな環境を持続する「持続可能な社会づくり」につながる環境教育を推進します。

◆ 取組指標とその評価

H30までは全60校、R1からは全59校

取組指標	現状値 H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	目標値
「四日市公害と環境未来館」「四日市市立博物館」と連携した環境教育を推進した学校数(校)	小学校 38	60	60	60	59	小26 中22	全59 11※ (小6)	全小中学校 (59校)

「四日市公害と環境未来館」の見学については、令和2年度見学できなかった小学校6年生11校(※)も合わせて実施しました。9月のオンライン学習期間は中学校4校の見学を中止し、代替学習を行いました。令和4年度は、四日市市立博物館が改修工事のため、小学校のみの見学実施となります。

◆ 具体的な施策の現状と課題

(1) 持続可能な社会づくりにつながる環境教育の推進 新プロ6

○「四日市公害と環境未来館」等と連携した取組

小学校では、社会科の学習と関連させ、四日市公害のあらましについて、語り部講話や証言映像を活用しながら、被害の実態や患者の苦しみに重点を置いた学習を行いました。見学後は、新聞やパンフレットなどにまとめて発表したり、人権学習とつなげてさらに深めたりしました。

中学校では、四日市公害裁判や本市の環境改善に向けた取組に重点を置いた学習を行いました。展示解説スタッフの話や展示から四日市公害の歴史を知るとともに、市民、行政、企業など様々な視点から四日市公害について考えました。

また、プラネタリウムと連携し、環境番組が視聴できる見学プランを設け、環境問題や自然科学への関心を高めることができました。

○四日市版ESD※¹カレンダーの活用

令和3年度は、ESD教育が、SDGs17の目標を意識した取組となるよう、SDGsの視点を入れた四日市版ESDカレンダーを全小中学校で作成しました。

各教科や特別活動、総合的な学習の時間など、関連する学習内容を年間指導計画に配列し、教科等横断的な学習の構造を明確にしたESDカレンダーの活用を進めています。



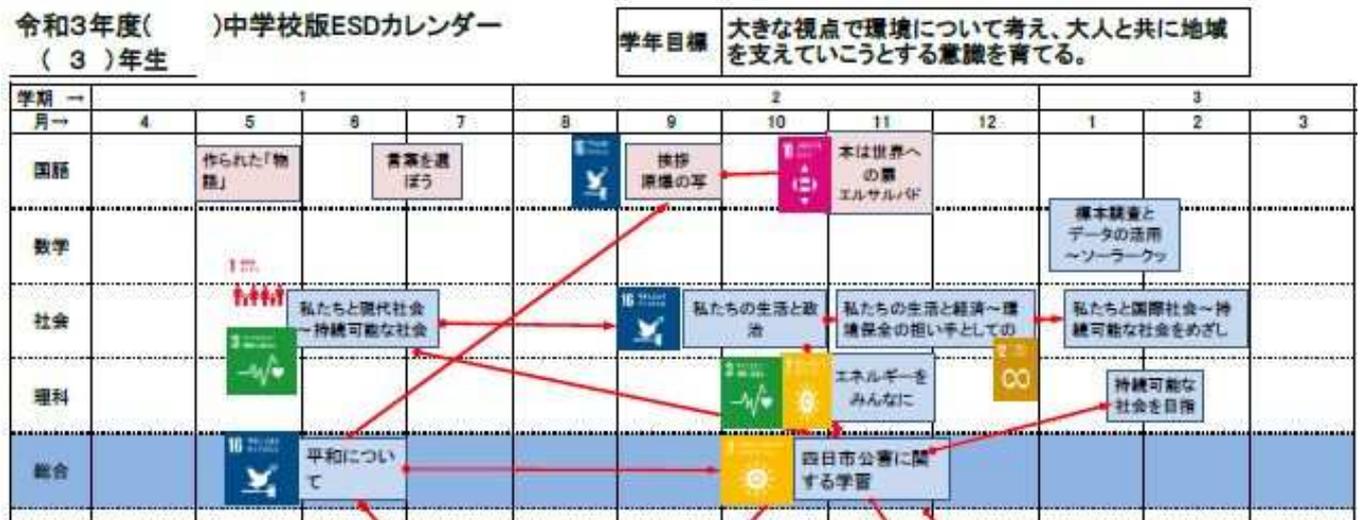
第3章 子どもを支える学校づくり

6 基本目標6 四日市ならではの地域資源を生かした教育の推進

各校が地域の自然環境や児童生徒の実態等を踏まえながら、学習内容と実生活・実社会の問題をつなげて考える授業や、地域・家庭と連携した授業など、E S D教育の推進を図る取組を進めています。

※1 E S D…現代社会の問題を自らの課題として主体的に捉え、持続可能な社会を実現していくことを目指して行う学習・教育活動。(Education for Sustainable Development)

E S Dカレンダー(例) ▼



(2) 地域とともに進めるよりよい環境づくり

令和3年度も、新型コロナウイルス感染症の影響で、例年通りの取組を行うことが難しい状況ではありましたが、多くの小中学校で家庭・地域及び企業等と連携し、体験を重視した環境教育を展開しています。

<具体的な取組例>

- ・ P T Aや校区の自治会と連携した清掃活動
- ・ 地域の方をゲストティーチャーに招き、環境保全につながる学習
- ・ 地域防災環境マップを作成し、地域へ発表

小学校 (37校中)	中学校 (22校中)	達成率 (%)
34	17	86.4

環境教育・環境保全活動を進めるにあたり、家庭・地域・企業と連携した取り組みを実施した学校の割合

◆ 今後の方向性

- 「四日市公害と環境未来館」の見学を充実させるために「そらんぼ四日市活用検討委員会」を年1回開催し、見学プラン等の検討・改善を行います。
- S D G sの視点を意識しながら、四日市版E S Dカレンダーを活用し、学年間や教科間の学習の関連を図り、これからの社会や環境をよりよくしていこうとする主体的な態度や実践力の基礎を養うための教育を推進します。
- 今後も、企業との連携授業、地域の人材・環境資源等を活用した学習を支援し、持続可能な社会づくりにつながる環境教育を推進します。
- 生活環境課等と連携し、「食品ロスダイアリー」などの環境教育の取組を進めていきます。
- 新教育プログラム柱6において重視されている体験的な学びの充実に加え、より深い学びにつながるよう、デジタル教材等の活用を推進していきます。